

その名の通り気軽に買い物ができるコンビニエンスストア、略して「コンビニ」を私もよく利用していますが、コンビニなどの小売業については、経済産業省の商業統計調査で調べています。

商業統計調査は商業の実態を明らかにするために1952（昭和27）年に開始された周期調査です。97（平成9）年以降は5年ごと、また、中間年に簡易な調査を実施しており、2012（平成24）年と14（平成26）年は総務省の経済センサスと同時に実施しました。

まず、山口県のコンビニの事業所数をみてみましょう。増加傾向にはあるものの、直近の14年の事業所数（店舗数）は390事業所と全国平均の約747事業所と比べると到底かないません。けれども、人口10万人当たりの事業所数は、山口県は約27.7事業所と、なんと全国平均の約27.3事業所を上回っているんですよ。

さらに、1事業所当たりの商品販売額を比べてみると、グラフのように、山口県の小売業全体（百貨店やスーパー、ドラッグストア、コンビニなども含まれます）で増加傾向にあることが分かります。なかでもコンビニでは、20年余りで約2倍と増加が著しく、全国順位も02（平成14）年に東京都に次いで第2位となって以降、6位以内を維持しています。

山口県民は、私も含め、コンビニをととてもよく利用しているのですね。

実は以前この欄で、同じ商業統計調査の結果から、閉店時刻の早い小売業者の割合が、全国に比べて山口県は随分高い、という話題を取り上げたことがあります（第56回・16（平成28年）年4月21日付「県内のお店は閉まるのが早い？」）。終日営業の多いコンビニがよく利用される理由は、こういうところにもあるのかもしれないね。

### コンビニと小売業の1事業所あたりの商品販売額 およびコンビニの事業所数の推移（山口県）

